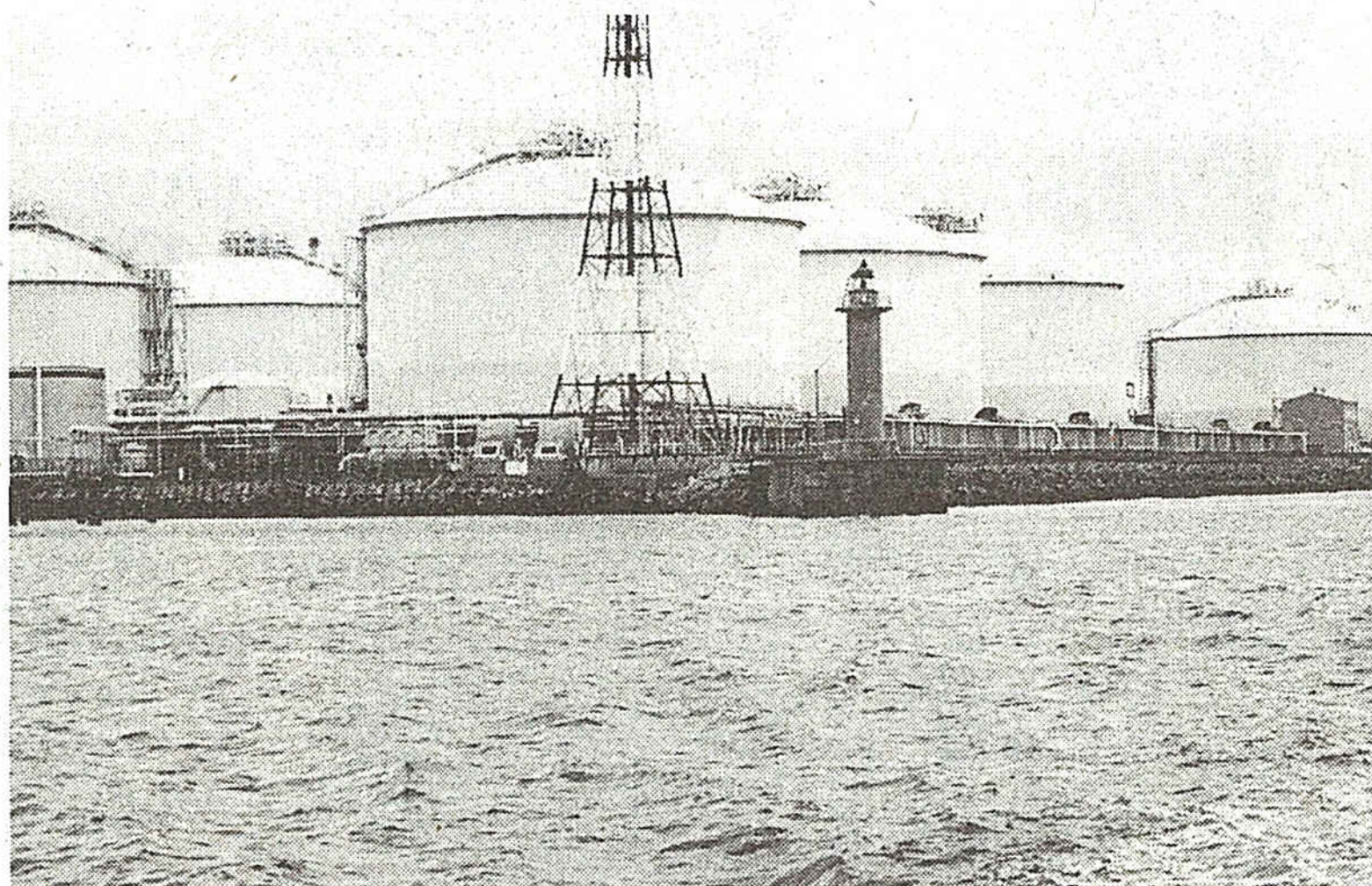


「津波火災 対策を」

南海トラフ巨大地震に備え、石油コンビナートの対策が求められている。貯蔵タンクから重油などが海に流出すれば、

阪大・加藤名誉教授



石油タンクが建ち並ぶ大阪湾沿岸の石油コンビナート＝加藤直三・阪大名誉教授提供

津波で流されたがれきから出火する「津波火災」を拡大させ、深刻な被害をもたらすおそれがある。大阪大の加藤直三名誉教授（海洋防災工学）は「大阪湾の全域に油が広がり、大阪市中心部でも津波火災が起きる危険性がある」と早急な対策の必要性を訴えている。

津波を伴う大地震では、揺れでタンクの油がこぼれたり、タンク自体が流されたりすることがある。一方、津波で流された住宅や車の電気設備が海水につかると発火することが知られており、油に燃え移れば大規模な火災になりかねない。宮城県気仙沼市は東日本大震災の際、流出した油による火災で大きな被害が出た。

大阪府の試算では、南海トラフ巨大地震の津波で府内では最大3万2000キロ分の石油タンクが流される。大阪大などがシミュレーションしたところ、大阪市の梅田エリアまで油が流れつく可能性があることも判明した。

加藤名誉教授は「地震の際、油を浮きにくくする薬剤を海上に自動散布するシステムを導入するだけで火災の被害は低減できる」と指摘する。【大久保昂】

知ってなるほど

地震・防災